



東京金山会通信 No.73



◀詳しくはMOYA Kaneyamaの
Instagramをご確認ください。

山形最上をともに愉しみ、語らい、つなぐ家 MOYA Kaneyama。

5月23日より、ライブラリー新シーズンがスタート。

MOYAより、金山町の皆様にご挨拶申し上げます。昨年は、いちやま旧住宅を利活用した私設図書館「まちライブラリー MOYA」の活動、そして同外蔵でのライブイベント「ICHI 秋の音狩り」にご参加いただき、誠にありがとうございました。今年のライブラリーは、5月23日(金)から半年の間、毎週金土日に開きます。戸口に黄色い暖簾をかけて皆様をお迎えいたします。なお、金山から最上エリアにルーツと愛着をもつ有志がチームを組み、NPO法人の設立を申請中です。地域の方々とともに、ゆっくりじっくりと活動の幅を広げ、文化の交流、地域の暮らしの探究、健やかな創造活動、里山の美しい景観の発展に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

メンバー代表 いしい み か いわかわ ま ゆ み はんだかずあき
石井美加 岩川真由美 飯田和昭

【問合せ】 東京金山会 広報担当 藤山善夫 ☎080-5525-0435
mail : fujiyama.d.siren@ae.auone-net.jp

▶「ライブラリー」金山杉香る住宅空間。今年はスペースを拡張して本棚を増やします。



▶「中庭」縁側から続く広い空と緑、せせらぎ。思い思いにお過ごしください。



森の子ども図書

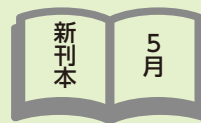
No.232



ガラクタやまの
ひこうきさん

作：たんぽぽくらぶ

新庄市内の高校生有志で構成するボランティア団体「たんぽぽくらぶ」。金山出身の青柳百恵さんも所属され、障がいへの理解を深めるために活動しています。熱意溢れる高校生が描いた著書は、飛べなくなってしまった飛行機さんをさまざまな障がいの特性のある園児たちが協力して、自分の得意な事を生かして飛行機さんをもう一度飛べるようにしてあげようとするストーリー。相手の気持ちに寄り添ったり、継続した居場所づくりの大切さが盛り込まれています。



※() 内作者名

／今月は9冊！／

カフネ(阿部暁子)／死んだ山田と教室(金子玲介)／恋とか愛とかやさしさなら(一穂ミチ)
「ねこ背」を治す1日1分ストレッチ！(碓田拓磨)／ねこのおせわをしてください。(シルヴィア・ボランド)
もぐらけんせつーりすさんいっかの木のおうち(長崎真悟)／成瀬は信じた道をいく(宮島未奈)
謎の香りはパン屋から(土屋うさぎ)／大人も知らない！？スポーツの実は…(白旗和也)

図書室だよ

恋とか愛とかやさしさなら
一穂ミチ／小学館



もぐらけんせつー
りすさんいっかの木のおうち
長崎真悟／童心社



【図書コーナー】 金山町中央公民館内 9時～17時

3月に実施した「本」にまつわる活動を報告します！



◀Instagram
はこちら

金山町
地域おこし協力隊

地域おこし協力隊 かわむら よしえ
川村 佳恵

皆さんこんにちは。地域おこし協力隊の川村佳恵です。3月16日、蔵史館にて「かぶりばカフネVol.2」を開催しました。昨年8月の東京都市大学の学生とのコラボカフェ開催から約半年、今回は金山小学校6年生の卒業を祝う特別企画として実施し、50名近い方々にご来場いただきました。前回好評だったビーナッツモンブランに加え、金山産メープルサップを使用した「メープルコーヒ」を新メニューとして提供し、特産品を活かした商品を展開しました。金山小学校6年生には「ほんみくじ」を制作して当日来てくれた皆さんに引いていただきました。すっかり「かぶりば」の顔となった彼らに、来場者の皆さんからも卒業を祝う「ほんみくじ」のプレゼントが贈られ、地域全体で卒業生を祝福する心温まる催しとなりました。今回は新たに芸工大生や「カムロヒュッテ」の皆さんも加わり、活動の輪が広がりました。2回目の開催ならではの「前回行けなかったから今回は予約しておく！」など期待の声もいただきました。今後も金山内外の団体の皆さんと積極的にコラボし、活動の幅を広げていきたいと思っています。



▶「かぶりばカフネ」スタッフの集合写真

また、3月25日より、「きつねのぼたん」の皆さんと一緒に「もったいない文庫」という活動を始めました。この取り組みは、「森の図書室」の蔵書整理に伴い廃棄になるのはもったいない本たちをどうにか活用したいと検討し、古本を町内外のみなさんに無料譲渡することになったものです。活動に賛同する方々から寄付を募り、募金額が集まると新しい本を買って「森の図書室」などに寄付をします。今後、まちの廃校の古本活用のほか、地域の皆さんのお家に眠る古本も受付できればと思います。引き続きよろしくお願いいたします！



金山杉俳句会報 第四九八回

眠りから覚めし遠山春たてり
離れぐり子供の声の弾みたる

阿部 一代

見る程に心はぐるる雛のおお
忘れ物思ひ出すよに名残雪

星川 キエ子

どの木にも芽吹きを促す春の雨
学舎に別れを告げし新一步

岸 昭子

杉山のはだけ雪見る谷木魂
碧天を担ぎ高堂白雪の峰

高橋 洋子

類杖をついて一人の春炬燵
香炉灰飾にかけて春彼岸

鶴沼 よし子

金縷梅に始まる山のブローグ
綾なせる枝の吐息か薄霞

栗田 弥超

かねやま紅風会

鉢植えの庭先飾るヒヤシンス
仏前へ香り届けるふきのとう
計報とも知らずに庭木の桜咲く

荒屋 阿部 勝子

我家にも春光差込む朝餉とき
群をなし北進はばたき鳥帰る
雪間より畑菜の香り佳味しめる

荒屋 関 喜美子

いち早く狭庭を飾る姫辛夷
卒業や花の進学五月空
雪解の川面を広げ猫柳

菅越 庄司 けみ子

主無き知るよしもなく椿咲く
音もなく寄り添ふように春の雨
春の日や形見の帯に亡姉しのぶ

七日町 青柳 キエ子

毒を消す春の旬菜はろにかく
出羽の里春本番の田畑かな
みちのくへ燕が帰る古母屋

上台 阿部 一步